

函館市上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策以外に対するご意見・ご質問

主題	ご意見・ご質問	ご意見・ご質問に対する企業局の考え方
<p>上下水道・交通事業における2020年実績および業績見通しについて</p>	<p>各事業における2020年度財政計画が記載されておりますが、コロナ禍による水道料金、下水道使用料、乗車料金収入への影響が大きいと思われます。至近(第二四半期など)における実績につきましてご教示願います。</p> <p>また、至近実績を受けた2020年度の収入見通しや、支出の計画変更を含めた業績見通しにつきましてご教示願います。</p>	<p>水道料金、下水道使用料および乗車料金につきましては、いずれもコロナ禍による観光客減少などの影響を受け、特に第1四半期への影響が大きく、その後、回復傾向が見られたものの、11月頃から全国的に感染の広がりが見られるなど、今後の予測が困難な状況にあります。</p> <p>このような中、各収入の4月から9月までの実績(税抜き)につきましては、水道料金で、約18億8,000万円(対当初予算95.6%)、下水道使用料で、約20億円(対当初予算96.2%)、乗車料金で、約2億4,000万円(対当初予算47.8%)となっております。</p> <p>2020年度通年での収入見通しにつきましては、今年度実績と前年度実績との減少率などを勘案し、水道料金で、約37億9,000万円(対当初予算96.6%)、下水道使用料で、約40億3,000万円(対当初予算97.1%)、乗車料金で、約5億3,000万円(対当初予算57.6%)を見込んでおります。</p> <p>また、支出の計画変更につきましては、水道事業会計および公共下水道事業会計のいずれも料金収入の減額に伴う支出の計画変更は考えておりませんが、交通事業会計につきましては、乗車人員の減少に合わせ、運行間隔を6分から7分間隔とし減便を行ったほか、箱館ハイカラ號を運休するなど支出をできる限り抑えているところであります。</p> <p>これらを踏まえた業績見通しにつきまして、当初予算で見込んでいた純損益との増減で申し上げますと、水道事業会計では、約1億2,000万円純利益が減少、公共下水道事業会計では、約9,000万円純利益が減少、交通事業会計では、当初予算の時点で純損失を計上しており、この純損失が約3億6,000万円増加するものと考えております。</p>
<p>上下水道事業における自動検針の検討状況について</p>	<p>水道の自動検針につきまして、お客様サービス向上等の観点から、スマートメーター導入の検討を行っている自治体もあると聞いておりますが、函館市の検討状況等、今後の方向性についてご教示願います。</p>	<p>スマートメーター導入につきましては、北海道電力や量水器メーカーが行っている実証実験について、随時、情報をいただいております。コスト的に割高であることや、積雪寒冷地での導入ということで技術面でも解決されるべき課題はございますが、引き続き情報収集に努めるとともに、先進事例の調査なども行い、時代の変化に対応できるよう、導入に関する知識・ノウハウを蓄積してまいりたいと考えております。</p>
<p>上下水道の技術の進歩について</p>	<p>昨年上下水道の技術の進歩について体験させてもらう機会があり、多方面の分野で安心して安全でコストを考慮した将来的な上下水道対策が国内の企業で考案されており、素人でもその技術力の高さに心が躍った。それらはこれから5年後、10年後の整備となっていくものと思うが、そういうことを知り、そういう改善・向上が成されていくことを思い描くと楽しみに思えた。</p>	<p>令和元年11月に函館市におきまして、産・学を含めた全国の水道関係者が一堂に会する「日本水道協会全国会議」、最新の資機材が展示される「水道展」が開催されました。企業局の職員はもとより、地元の水道関係者、工業高校の生徒や高専の学生など多くの方が参加し、水道に関わる最新の知見に触れる貴重な機会となりました。</p> <p>今後におきましても、様々な機会をとらえて職員に日々進歩する技術を習得させるなど人材の育成に努め、災害に対して強靱なライフラインを目指してまいりたいと考えております。</p>